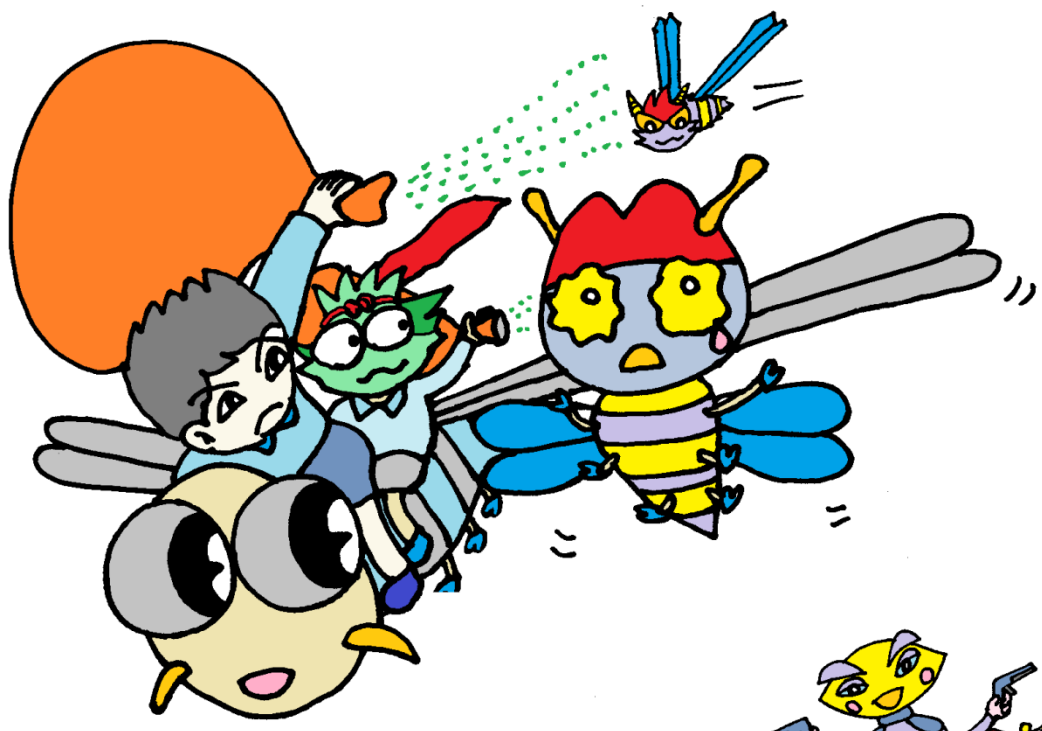
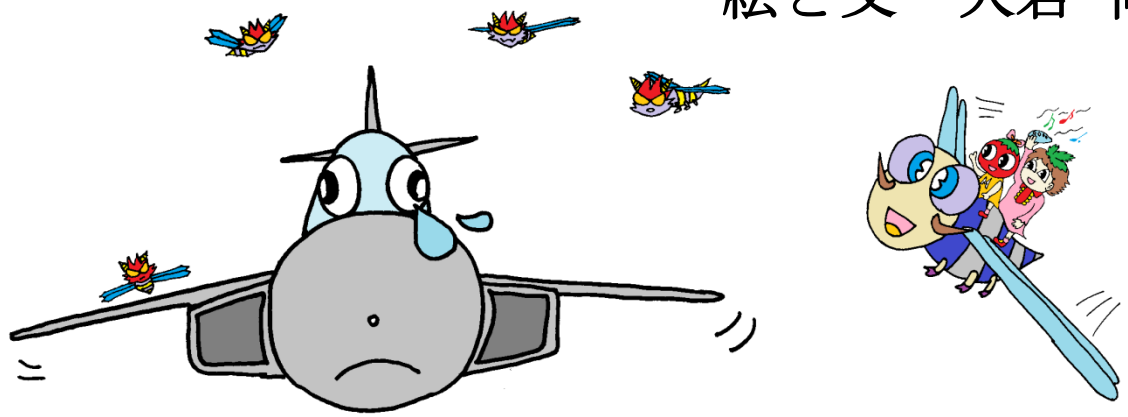
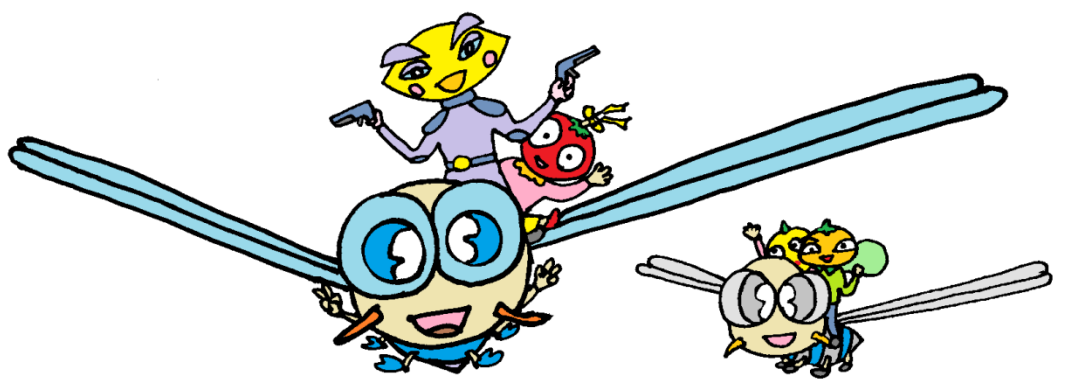


第1部 フレンズワールドの危機 後編

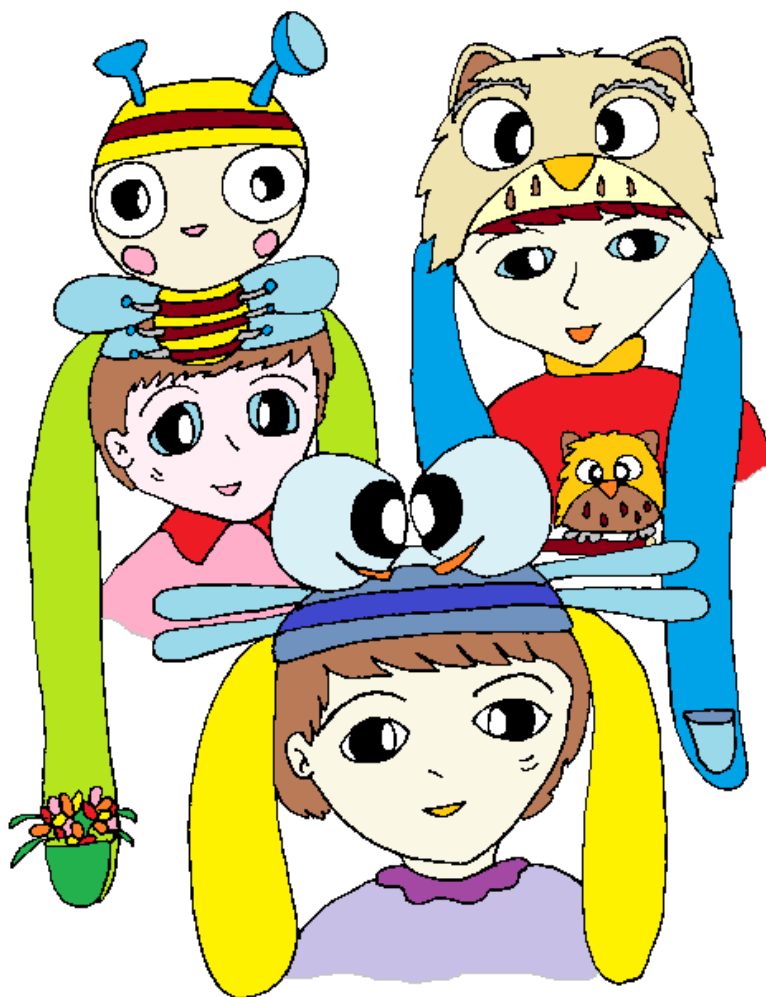
絵と文 大岩 伸之



まいんど
うえーぶ
まんたん



野菜のバイオキャップやマフラーで頭が良くなるかな？



はじめに いとこの子供の朗読

フレンズ前編と並行して絵本の編集も進めてきました。絵本は前編から「不思議な雑木林」、「レインボーロコモティブ」の2つを、後編から「こころの木」、「トモダチ大作戦」の計4つを切り出します。ちょうど今はお盆の期間です。おふくろの在所に行ってきたのですが、母方のいとこの子供はまだ小さく、幼稚園と小学校2年生でした。そこでできていた絵本の「不思議な雑木林」をパソコンで見せました。

「わたしが読む」

とその小学校2年生の女の子が言いました。幼稚園の妹を横にしてボクのパソコンに表示されたpdf絵本を読み始めました。

「ずいぶん上手に読むね」

ボクがそう言うと、いとこの嫁さんが答えました。

「この子は読むのが大好きなんですよ。図書館で借りてきていくつも絵本を読んでいます」

絵本の最後には「フレンズの戦いの歌」が載っています。小2の女の子はマウスを操作して一番最後に来ると、

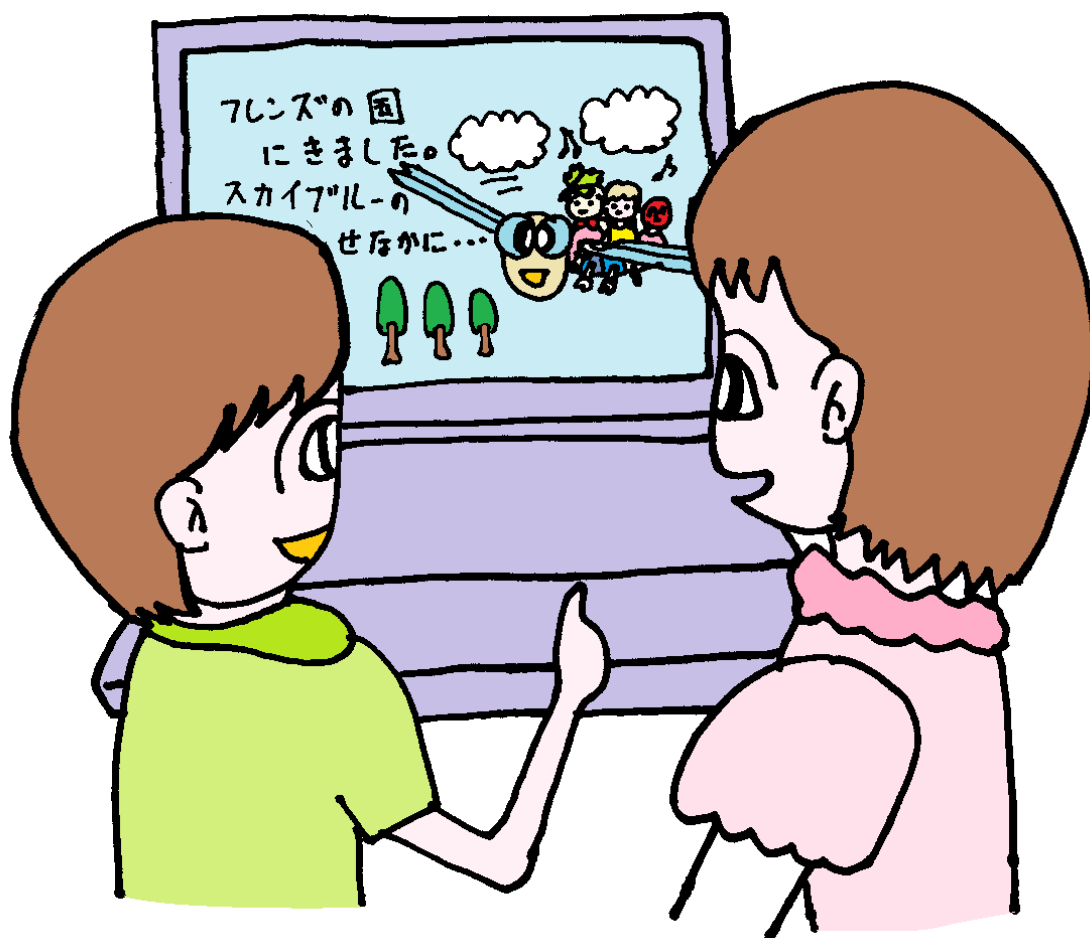
「フレンズ フレンズ フレンズ フレンズ・・・」と歌を歌うように口ずさみました。まだ聞いたこともない歌なのに子供は素直に声に出して言います。

「このお歌を歌って」

そう言うので指で歌詞を追いかけてながら歌を歌いました。お兄さんもいたのでここで3人のファンができたようです。この後編と残りの絵本が発行され、朗読ライブを始める予定です。このような小さなファンを大切に育てて行きたいと考えています。

ボクの仕事はエレクトロニクス（電子回路）の設計やコンピュータープログラミングです。本や技術書を中心に15年ほど前まで書籍、雑誌に執筆していました。はじめは、雑誌のペンネーム「ヤッピー大石次郎」で行こうと思ったのですが、あるコンサートの友情出演のチラシが「大岩伸之」だったのをきっかけに、この実名の方が良いのではということになり、そのようになりました。

もう2012年の夏時点で57歳です。1月3日誕生日なので来年の2013年のお正月を過ぎると58歳になります。初老が始まろうとしています。そんな中で35年も若返り、22歳の別れを惜しむように挑戦していきたいと思います。そうそう今描いている絵や、作っている音楽は22歳のときにそっくりだって、2人の妹が言っていました。



— 第1部の（後編）目次 —

第3話 こころの木

第1章 スイカの帽子をつくろう

第2章 大統領への手紙

第3章 惑星チターの異変



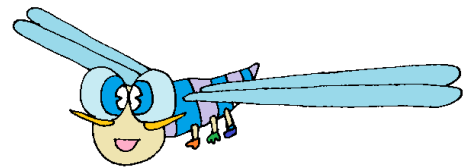
第4話 トモダチ大作戦

第1章 大統領への手紙

第2章 デビルビー登場

第3章 原子力発電所の危機

第4章 ビッグドラゴンフライ



エピローグ

登場人物のその後が紹介されています。その後は、一体どうなったのでしょうか？



女神のような君(復興ソング)

1



D Dmai7 Em Em7 A A7 D
前に広がる 荒れた大地に 突然現れた

D Dmai7 Em Em7 A A7 D
女神のような 笑顔の君に グラス傾ける

F#m Bm F#m Bm
できることなら このままで 語り明かそう 君の国



Em A7 D F#7 Bm Em Em7 A A7
そしてその 人の暮らし 愛 広がる こよいの 時間は 止まろうとしてる

D Dmai7 Em Em7 A A7 D
はじめての出会い 驚いたところ ざわめく街かどに

D Dmai7 Em Em7 A A7 D
消えて行った 不思議な香り だけを残したまま

2

D Dmai7 Em Em7 A A7 D
静かになった 森のはずれで 1人たたずんでる

D Dmai7 Em Em7 A A7 D
帰る道筋 振り向いた背中 君を思い出す

F#m Bm F#m Bm
できることなら 引き止めて 伝えなかった 僕の国

Em A7 D F#7 Bm Em Em7 A A7
そしてこの 人の思い 夢 広がる こよいの 時間が 終わろうとしてる

D Dmai7 Em Em7 A A7 D
突然の出会い ときめいたところ はじける緑の中

D Dmai7 Em Em7 A A7 D
消えて行った 不思議な香り だけを残したまま

